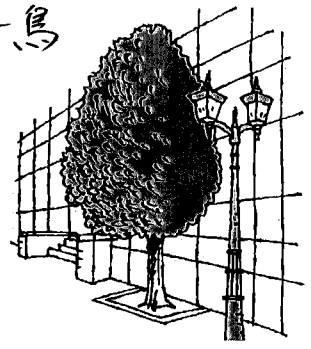


三月のテーマ
謙虚に生きる



え・小島サエキチ

今できることを やってみよう

頭 でただ思っていることと、
実行することは違います。

私たちの日常でも、よくわかって
いる「自分には必要なことだ」と
頭で理解していても、なかなか実
践できずに足踏みをしていること
は多いのではないのでしょうか。

たとえば「経営者モーニングセ
ミナー」での気づきです。「万人幸
福の葉」を輪読したり、会長挨拶、
会員のスピーチ、講話と続く約一
時間の中で、自分にあてはめて「こ
れは重要だ」と認識しても、一步
会場から離れると、なかなか行動
に移せないものです。

理由の一つとして、早朝から勉
強し、知識を得たことで、「自分は
よくわかっている」(他者よりも優
れている)という傲慢さが芽生え、
実際にやったような錯覚に陥って
しまうのかもしれない。

たとえ知識を得ても、実践実行
しなければ、よい結果は現われま
せん。「万人幸福の葉」の前文には
こう記してあります。

すべて無条件に、このまま実
行していただきたい。そこには

必ず新しいよい結果が現れます。
思いもよらぬ幸福な環境が開け
てまいります。

「実践する」とは、新しい気づき
を実行に移すこと、日々進むこと。
理屈などなく、そのまま無条件に
行なつてこそ、私たちの心に巣く
う「傲慢さ」は払拭されて、「謙虚
な心」へと昇華されます。

監督者として自動車部品工場に
勤めていたK氏は、工場の閉鎖が
決定し、他県への転勤を勧められ
ました。氏の長男はまだ高校生で
す。家族のことを考えて、K氏は
早期退職を決めました。

新しい職場を求めてハローワー
クへ赴くと、若者で大混雑してい
ます。自分の能力には自信があつ
たK氏でしたが、五十七歳という
年齢もあつて、面接を受けた会社
はいずれも不合格でした。

〈無職の自分にできることは何だ
ろう〉と考えた末、K氏の始めた
実践は、妻への挨拶でした。
家族と過ごす時間が増えた分、
仕事が決まらない苛立ちをつい妻
にぶつけてしまいがちだったK氏。

〈仕事はなくても、挨拶はできる〉
と実践を決意したのです。

長年連れ添った妻に、改まって
挨拶をするのは照れくささもあり
ました。それでも、「今日一日よろ
しくお願いします」と頭を下げる
と、〈本当にそうだな、今日一日妻
の世話になるんだな〉と、謙虚な気
持ちは湧いてきます。会社勤めの
頃にはなかつた感情でした。

K氏は、挨拶の実践とともに、
日々接する人の言葉に耳を傾け、
「はい」と受け止める実践にも挑
戦しました。やがて、ある会社の
面接で「はい、喜んでやります!」
と即答した返事が好印象となつて、
再就職が決まったのです。

〈今の自分にできることは何だろ
う〉という問いは、日常に多くあ
ります。この時がチャンスです。
問いかけから得た「気づき」を逃
さず、まずやってみましょう。実
行に移してみましよう。

日々の実践を継続することで、
謙虚な心が養われ、新しい環境が
開けてきます。足元の実践から、
幸福への扉は開くのです。